

第158回定時株主総会



1. 2024年3月期実績と2025年3月期見通し

2. 配当について

3. 型式指定申請に関する事案について

4. 2030年に向けた経営方針及び今後の取り組み

1. 2024年3月期実績と2025年3月期見通し

2. 配当について

3. 型式指定申請に関する事案について

4. 2030年に向けた経営方針及び今後の取り組み

2024年3月期の実績

- 長期化するロシア・ウクライナ情勢、中東での紛争勃発、世界的な金融引き締めによる景気減速の懸念などを背景に、先行き不透明な状況が継続
- ラージ商品群の導入に加え、収益確保に向けて、販売が好調な市場への仕向地変更、車種構成、販売価格や装備の見直しによる販売強化を推進

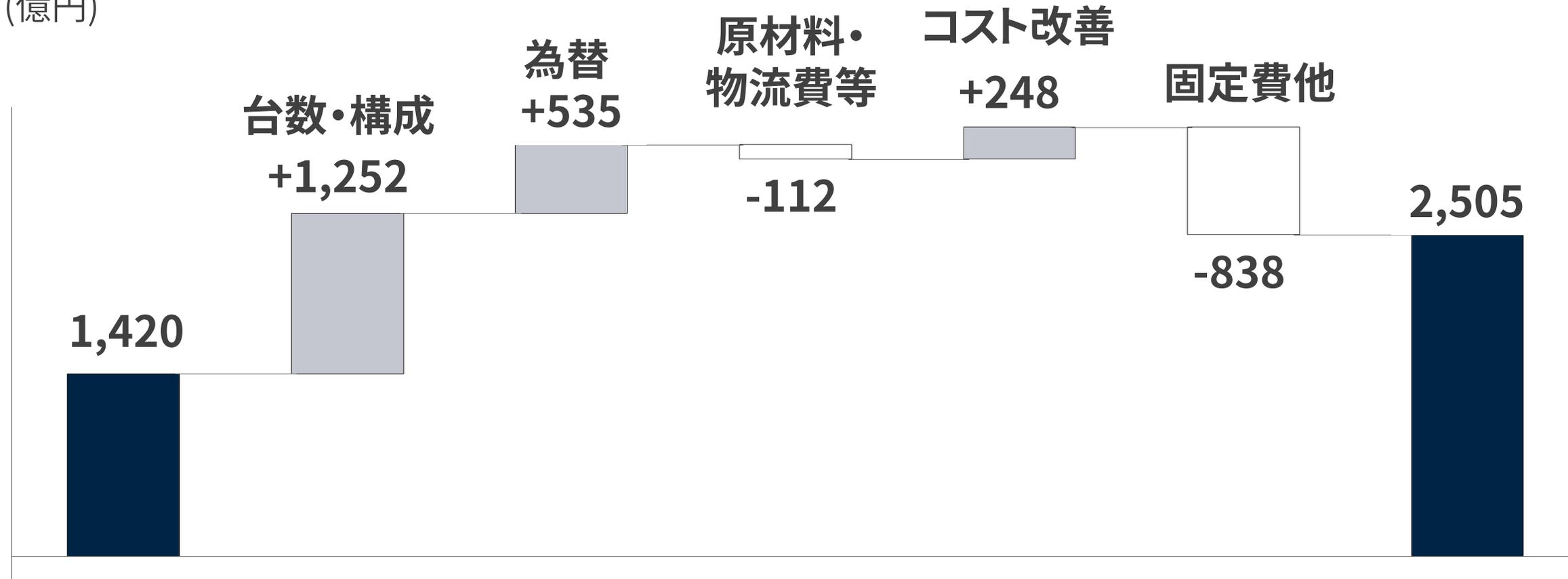
2024年3月期の実績 販売台数と財務指標

	'23年3月期	'24年3月期	対前年増減	
	通期	通期	通期	
グローバル販売台数(千台)	1,110	1,241	+131	+12%
日本	165	160	-5	-3%
北米	407	514	+108	+26%
欧州	160	180	+20	+13%
中国	84	97	+12	+15%
その他市場	294	289	-5	-2%
売上高 (億円)	38,268	48,277	+10,009	+26%
営業利益 (億円)	1,420	2,505	+1,085	+76%
当期純利益 (億円)	1,428	2,077	+649	+45%
売上高営業利益率 (%)	3.7	5.2	+1.5 pts	

※当期純利益は、親会社株主に帰属する当期純利益を示す。

2024年3月期の実績 営業利益変動要因(対前年比較)

(億円)



2023年3月期

対前年増減 +1,085

2024年3月期

2024年3月期の実績 商品に関するトピック



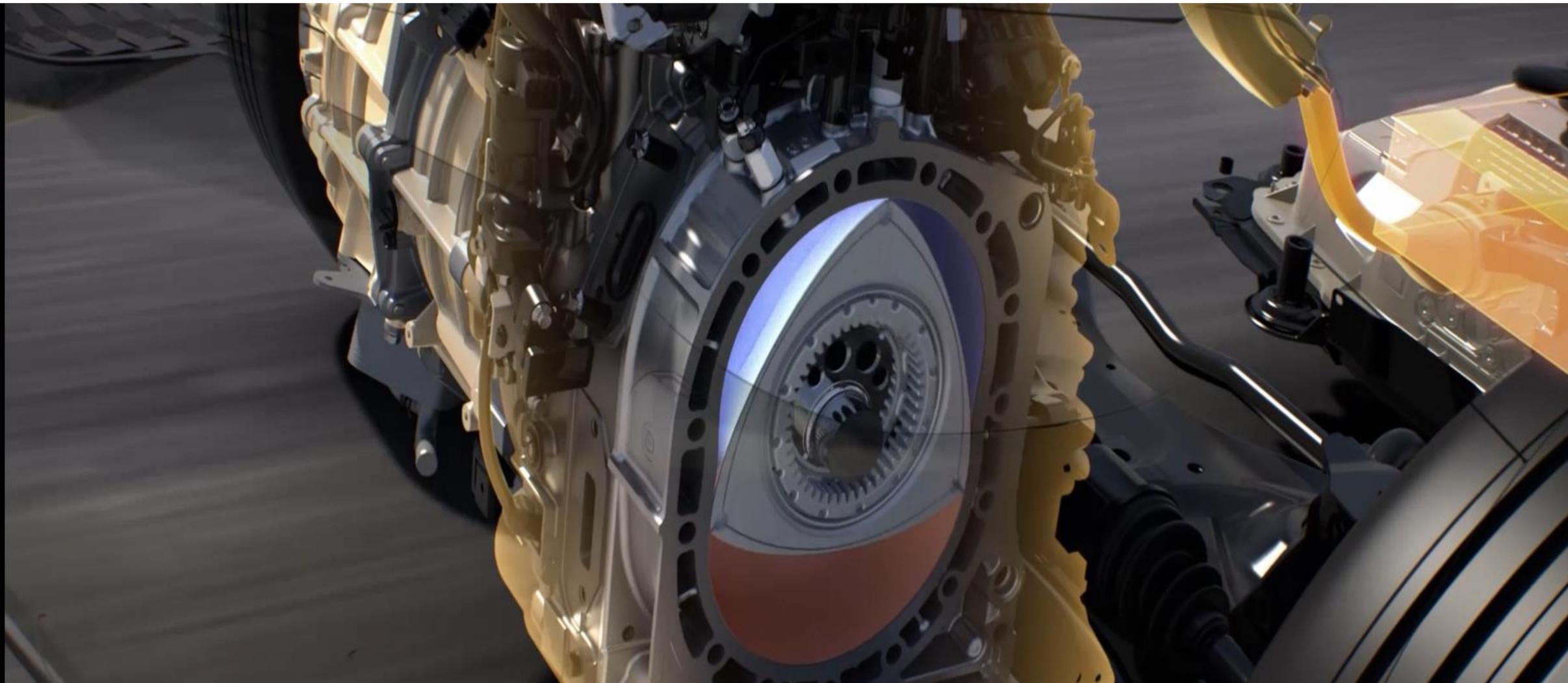
2023年4月に、米国にて「MAZDA CX-90」の販売を開始

2024年3月期の実績 商品に関するトピック



「MAZDA MX-30 Rotary-EV」を2023年11月に日本にて販売開始

2024年3月期の実績 商品に関するトピック



新たに開発した発電用ロータリーエンジン

2024年3月期の実績 商品に関するトピック



2024年4月に、北米市場にて「MAZDA CX-70」の販売を開始

2024年3月期の実績 商品に関するトピック

<MAZDA3>



<MAZDA CX-30>



<MAZDA CX-5>



<MAZDA CX-3>



既存モデルについても、商品改良により安全性・利便性・快適性を向上

2024年3月期の実績



2023年10月に、「MAZDA ICONIC SP (マツダアイコンニック エスピー)」を公開

2025年3月期の見通し

	'24年3月期	'25年3月期	対前年増減	
	通期	通期	通期	
グローバル販売台数(千台)	1,241	1,400	+159	+13%
日本	160	180	+20	+13%
北米	514	600	+86	+17%
欧州	180	183	+3	+2%
中国	97	98	+1	+1%
その他市場	289	339	+50	+17%
売上高(億円)	48,277	53,500	+5,223	+11%
営業利益(億円)	2,505	2,700	+195	+8%
当期純利益(億円)	2,077	1,500	-577	-28%
売上高営業利益率(%)	5.2	5.0	-0.2 pts	

※当期純利益は、親会社株主に帰属する当期純利益を示す。

2025年3月期の見通し

北米市場での成長/ ラージ商品によるトップラインの成長

- 北米市場は、CX-90、アラバマ工場製のCX-50 による増販効果
今期は、CX-70を加え、ラージ商品とCX-50で台数成長、初の60万台へ
- 日本、欧州を中心にCX-80を導入し、グローバルでラージ商品4車種が揃う
- 今期以降、ラージ商品が出揃い、成長軌道へシフト



「MAZDA CX-60」



「MAZDA CX-70」



「MAZDA CX-80」



「MAZDA CX-90」

1. 2024年3月期実績と2025年3月期見通し

2. 配当について

3. 型式指定申請に関する事案について

4. 2030年に向けた経営方針及び今後の取り組み

配当について

2024年3月期：期末配当 1株当たり35円を予定
(普通配当30円、特別配当5円)
年間配当 1株当たり60円

2025年3月期：中間配当 1株当たり25円を予定

1. 2024年3月期実績と2025年3月期見通し

2. 配当について

3. 型式指定申請に関する事案について

4. 2030年に向けた経営方針及び今後の取り組み

型式指定申請における事案について

1. 事案概要

(1) 過去生産車3車種：衝突試験における試験車両の不正加工

アテンザ、アクセラ、アテンザ/MAZDA6 該当車両 約10万台

(2) 現行生産車2車種：出力試験におけるエンジン制御ソフトの書換え

ロードスターRF、MAZDA2 (1.5L ガソリンエンジン搭載車) 該当車両 約5万台

2. 再発防止策

- 試験が認証法規に準拠した状態で実施されたかをチェックする仕組み、およびガバナンス体制の再整備
- 認証法規に準拠した試験を適性実施するための手順書の見直し・教育・実践の徹底
- 認証法規に準拠した試験条件を安定的に満たす設備の整備・強化

1. 2024年3月期実績と2025年3月期見通し

2. 配当について

3. 型式指定申請に関する事案について

4. 2030年に向けた経営方針及び今後の取り組み

2030経営方針

マツダ経営基本方針

1. 地域特性に適した電動化戦略で、地球温暖化抑制に貢献すること
2. 人を深く知る研究を進め、安全・安心なクルマ社会に貢献すること
3. ブランド価値経営を貫き、お客さまに支持され続けること



2030年に向けた主な取り組み

1. カーボンニュートラル

2. 電動化

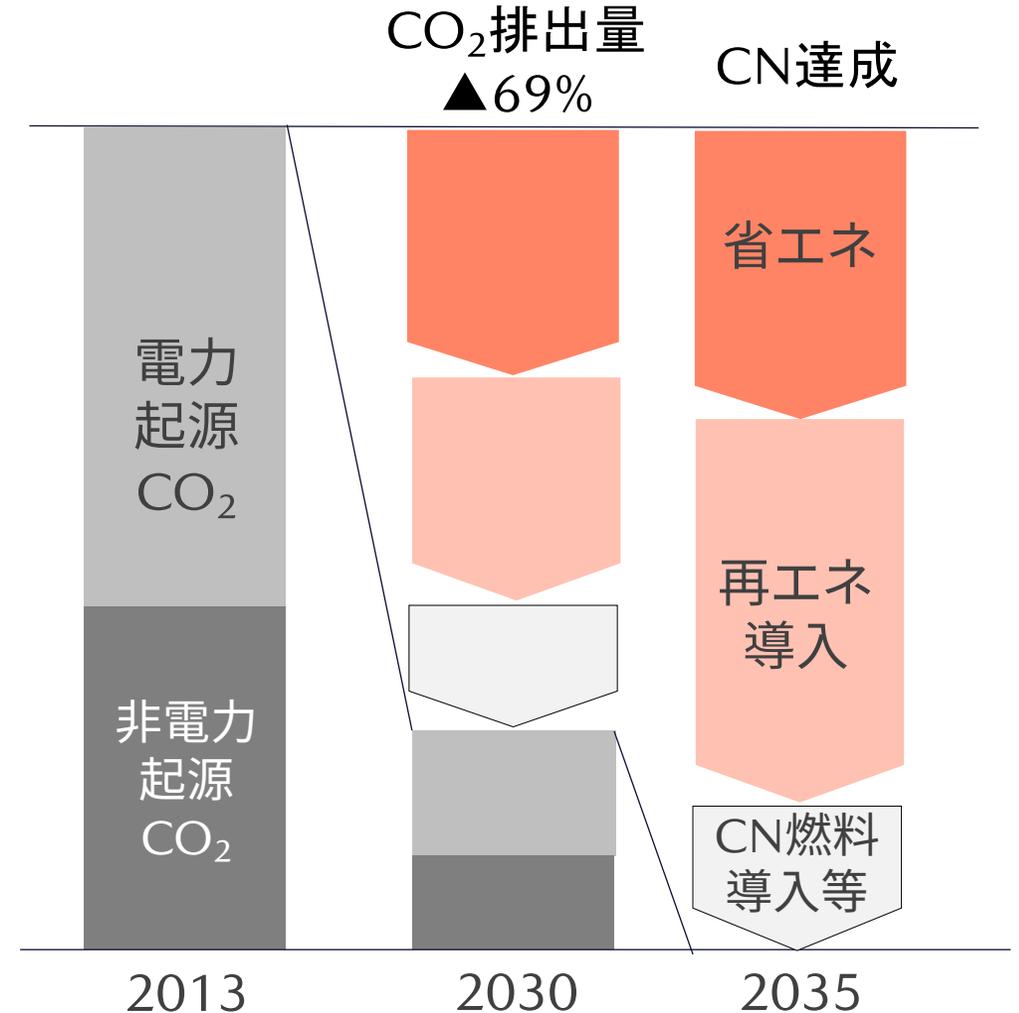
3. 原価低減とサプライチェーン強靱化

4. 人とITの共創による価値創造

主な進捗状況

カーボンニュートラルへの準備

- 実現に向けた3つの柱：
 - (1) 省エネルギーの取り組み
 - (2) 再生可能エネルギーの導入
 - (3) カーボンニュートラル燃料の導入等
- 国内自社工場と事業所の中間目標とロードマップを具体化
中間目標：2030年度CO₂排出量を2013年度比で69%削減

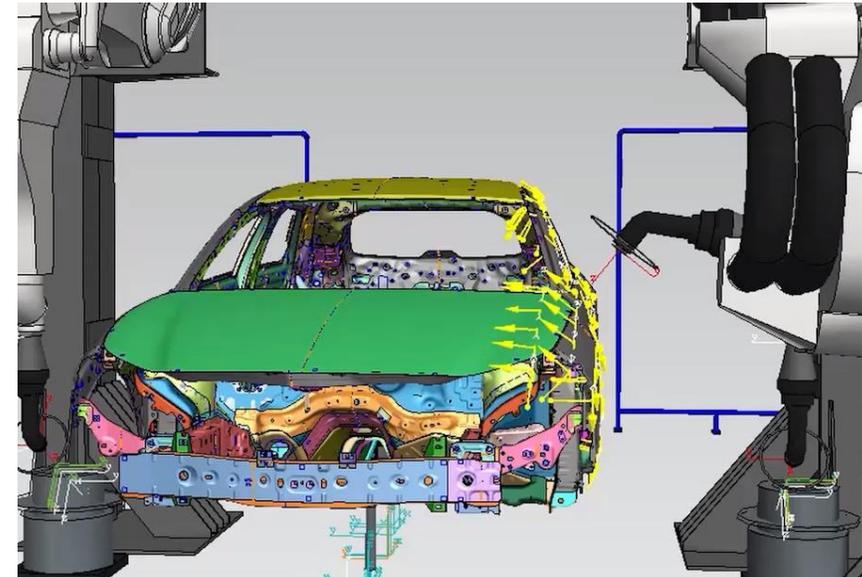


主な進捗状況

カーボンニュートラルへの準備

(1) 省エネルギーの取り組み

- 製造工程の技術革新(塗装吹付塗着効率の向上、熱処理の時短 等)
- 生産性改善・業務効率化(生産性・品質・運用改善、モデルベース開発 等)
- 設備の高効率化(空調設備の高効率化、照明のLED化、モーター駆動設備のインバーター制御化 等)



主な進捗状況

カーボンニュートラルへの準備

(2) 再生可能エネルギーの導入

- 中国地域のCN電力需給拡大を目指す「CN電力推進部会」への参画
- 地場企業との太陽光発電によるオフサイトコーポレートPPAの締結
- 本社工場発電設備のクリーンエネルギーへの転換に向けた「波方ターミナルを拠点とした燃料アンモニア導入・利活用協議会」への参画

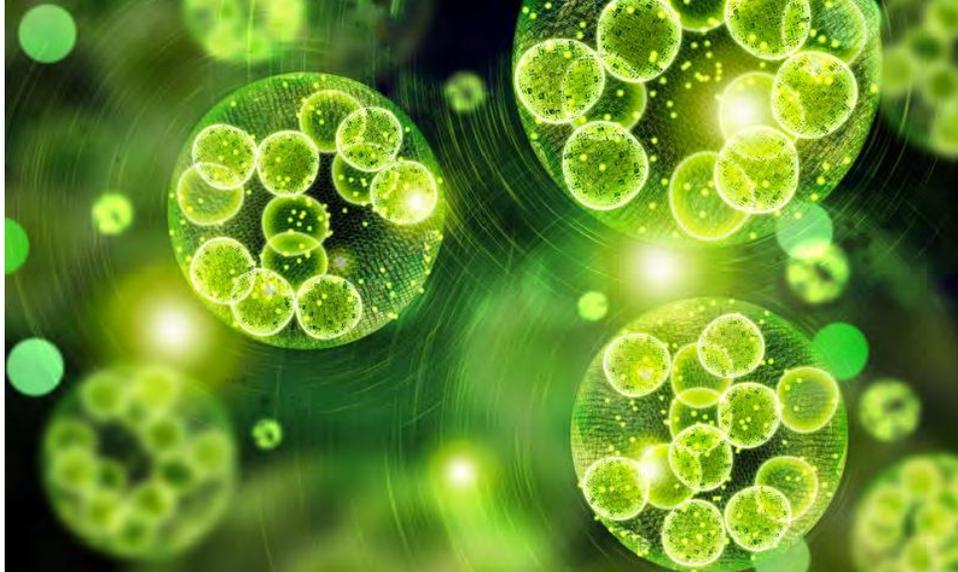


主な進捗状況

カーボンニュートラルへの準備

(3) カーボンニュートラル燃料の導入等

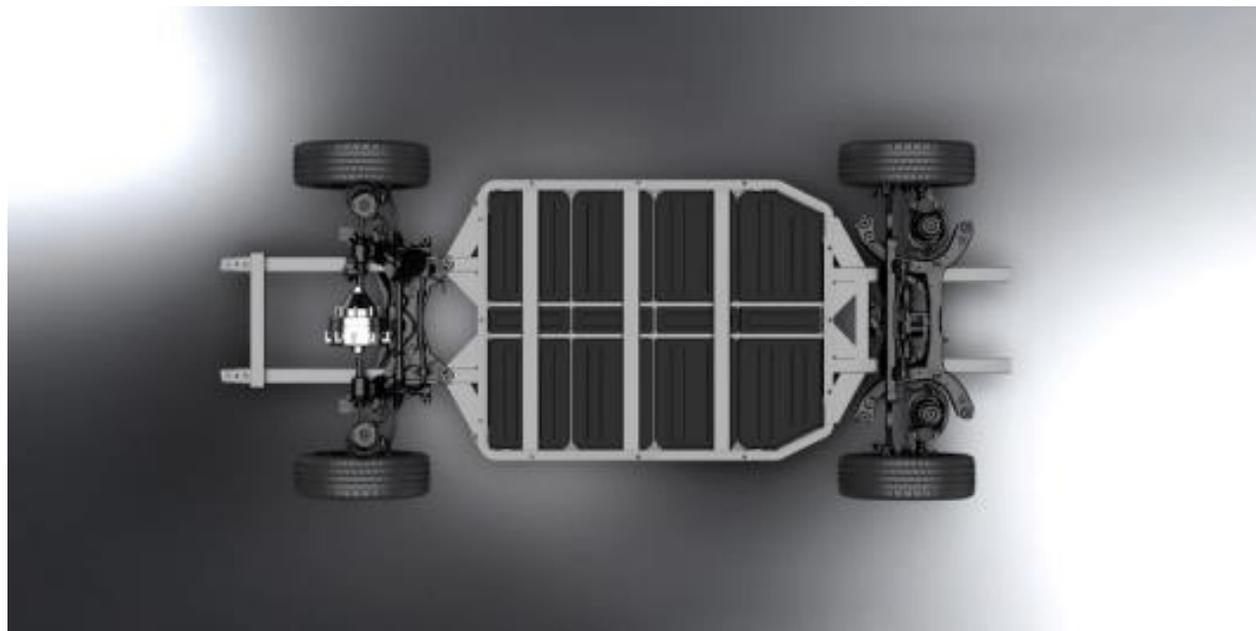
- 社内製造工程・輸送等における次世代バイオ燃料の導入
- 中国地域のCN燃料需給拡大を目指す「CN燃料推進部会」への参画
- 中国地域で創出するCO₂クレジットの活用



主な進捗状況

電動化の加速

- 電動化事業本部(通称e-Mazda)を発足し、電動化事業へのリソースシフトを加速
- マツダ初の専用プラットフォームのバッテリーEVを2027年導入へ



主な進捗状況

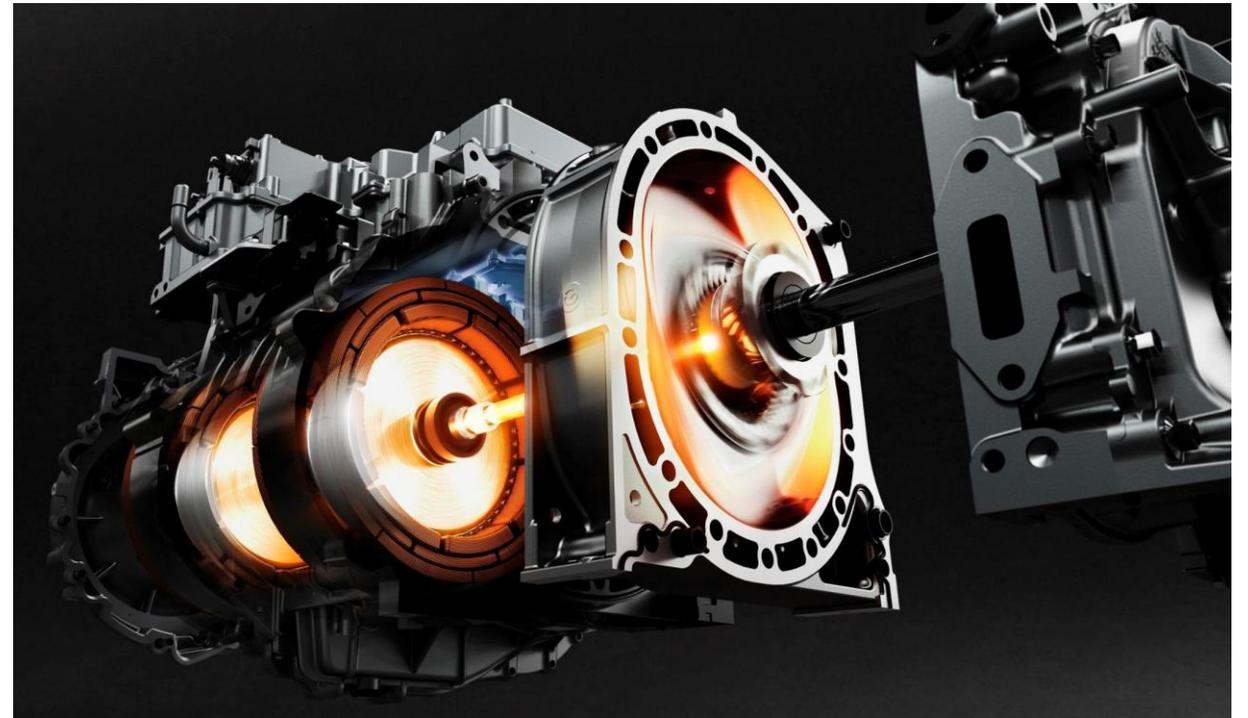
電動化の加速



- 中国市場には、協業パートナーの技術を活用し、バッテリーEV、プラグインハイブリッドを搭載した「MAZDA EZ-6」を今年中に導入。
- 計4車種の新エネルギー車の導入を計画

主な進捗状況

- 5月28日、SUBARU・トヨタ自動車と、カーボンニュートラルの実現に向けて、電動化に適合する新たなエンジン開発を三社三様で宣言
- ローターエンジンとは電動化時代に新たな価値を提供できるユニット



主な進捗状況

原価低減とサプライチェーンの強靱化

- 共創活動によるサプライチェーン・バリューチェーン全体の効率化
 - 調達リスクの低減活動等
- ムリ・ムラ・ムダを徹底的に取り除き原価の適正化
 - 機種数、スケールメリット及び投資効率の改善

外部環境変化の影響を最小限にとどめる取り組み

BEFORE



AFTER



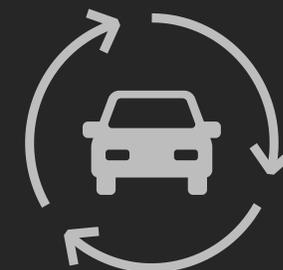
固定費負担を抑え、お客様の期待される価値を実現する



部品種類数の
適正化



サービスコストの
かからない構造



リサイクル
しやすい構造

主な進捗状況

ブランド体験の拡大

- お客様を起点とし、お客さまが望まれるマツダらしい商品、サービスを提供することにより、お客様と感情的な繋がりを強めていくブランド体験の取り組みを強化
- 様々な体験コンテンツを通じてお客さまにクルマの楽しさに触れていただくファンイベント「MAZDA FAN FESTA」などの計画を策定し、順次実施



主な進捗状況

人への投資とITの共創による価値創造

- カーボンニュートラルや電動化などの大きな変化を乗り越える最も重要なリソースは「人」
- 組織風土改革の取り組み「BLUEPRINT(ブループリント)」を全社展開
- 全本部でDX推進活動を展開し、「デジタル人材」の育成を推進

